

第1分科会（中学校・魅力ある学校経営）記録

提言テーマ「落ち着いた学校づくりに資する学校経営マネジメントの取組」

提言者 [吉野ヶ里町立東背振中学校 伊東 幸一郎]

司会者 [神崎市立千代田中部小学校 平山 忠直]

記録者 [神崎市立神埼小学校 廣瀧 由紀子]

【研究協議題】

- ・ 落ち着いた学校づくりに資する学校経営（人事評価）について
- ・ 落ち着いた学校づくりに資する学校経営（人材育成）について

1 質疑応答

- ・ とくになし

2 グループ協議報告

Eグループより（欠席者多数のため、中学校グループは1グループのみ）

- ① 教職員一人一人の資質・能力を発揮させるための校長のかかわり方について
 - ・ STであると何でもできるものが考えていたが、実は、得意な分野と苦手な分野があるということの見極めがうまくできなかった。
 - ・ 職員の本音をなかなか聞き出せないところがある。ここをしっかりとっておかないと（深い部分を読み取っておかないと）先々、職員がきつくなると感じる。
 - ・ コミュニケーション力が高い低いなど、職員の強みや弱みをとらえておく必要があり、その職員の能力を発揮させるためには、仕事の量や立場、プライベート等の背景を把握しておく必要がある。
 - ・ 普段の様子を観察しながら、機を逃さない対応が必要である。
 - ・ 学校内外だけでなく外部の人材を活用した対応も効果的ではないか。
- ② 校長の学校マネジメントを助ける人・妨げる人について
 - ・ まずは、校長と教頭の関係が良好であることが何より大切である。
 - ・ 教頭を職員から頼りにされる人に育てていくことが校長に求められていることだろう。
 - ・ 教頭に対して、校長がマネジメントをどれくらい理解させられるかが「鍵」
- ③ 人事評価と人材育成について
 - ・ 中間面談で意見をかわすことで深めさせたいし、深めさせることができる。
 - ・ 校長一人でやるのではなく、教頭と共有しながら進めていくことが重要。
 - ・ 職員をしっかりとほめたうえで、課題を伝えることで意欲を高めさせる。
 - ・ 職員（大人）も承認欲求は高い。これを生かすこと。

3 まとめ

文字通り「提言」であった。私たちが言いたくてもうまく言えない、表現できないことについて明確に示していただいた。これまでの伊東校長先生の歩みを大きく感じた。専門は、国語科ということもあり、「言葉」に厳しく、我々が何気なく使っている「言葉」を改めて定義することの大切さを感じた。概念を言葉や図にして、明確にしていくことは学校経営・運営をしていくうえで、大きなポイントとなると教えていただいた。提言にある「当たり前を疑え」という言葉が大変印象的だった。